


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成26年11月17日

山北町議会議長 池谷 莊次郎 殿

受付番号	第2号	質問議員	3番	渡辺 良孝 
件名	水源の町に「未病を治す里」づくりを			
要 旨				
<p>三保ダム丹沢湖は、神奈川県民の水がめとして完成し、早36年が経過した。県では、ダムの建設により県民が将来にわたって必要とする水源が確保されたことにより、水源地域の環境はその地域の人々が、環境へ配慮した生活により、守られてきたものとしてとらえてきた。</p> <p>そこで、水資源開発によって誕生した、相模湖、津久井湖、奥相模湖、丹沢湖そして、宮ヶ瀬湖の五つのダム湖を「やまなみ五湖」と名付け、水源地域の活性化を図るため、「やまなみ五湖ネットワーク整備基本計画」を策定し20年以上にわたりさまざまな施策を推進してきた。</p> <p>しかし、水源地域における人口減少、高齢化の進展など、社会変化の加速により課題が新たに生まれた。そこで、水源地域を「癒しの空間」「新しい価値観を体現する場」ととらえ、平成23年3月に新たに「水源地域交流の里づくり計画」を策定し5ヶ年間の平成27年度を目標年度として推進してきている。</p> <p>足柄地域で、この計画に係るのは当町のみであり、特に津久井地域の町が相模原市に合併したこともあり、この計画の理念にそった事業を推進するよう、丹沢湖の所在の町として、県へ積極的に提言していくべきではないかと思い質問します。</p>				
<p>1. 県では、平成23年に関係行政機関や団体の代表者等により、水源地域を対象に「水源地域交流の里づくり計画」を策定し、3カ年近くの推進を図ってきた。しかし、この計画に沿った施策の成果が見えていないと思うが、町としての効果はどうか。</p> <p>2. この計画は、県が策定することであるが、来年度の平成27年度を最終計画年度としている。水源地域の当該町として、今後の対応についてどのように県に提言していく考えか。</p>				

3. この計画の「重点的に取り組む施策」として、「交流施設の利用拡大の推進」が提起されている。当時の施設設置の経緯を調べると、やまなみ五湖の西側のゲートとして山北町塩沢に「道の駅」、そして丹沢湖畔の玄倉に自然観察活動の場として「丹沢湖ビジターセンター」が建設された。

しかし、ここで丹沢湖ビジターセンターの廃止が打ち出され、町では再三県に要望・協議し、議会でも調査研究をしてきた。

しかし「水源地域交流の里づくり計画」が進行中で「交流施設の利用拡大の推進」を重点施策としている。このような県の一貫性のない行政対応に、県民の水がめとして協力しているやまなみ五湖に関連する市町村が、連携を取り、強く申し入れをすべきではないか。

4. 私は、6月議会で丹沢湖畔のトリムコースの活用について質問をした。そこに繋がる三保ダム広場は、野外音楽の場としても良く、癒しの空間として感激している来訪者の声を聞いている。清水地域には道の駅があり、ここでスマートICの設置が決定した。丹沢湖のある町で、県下でも誇れる自然があり、定期的に広域のスポーツイベントも開催されている。ここで、「水源地域交流の里づくり計画」に繋がるよう、水源の町としてトータル的に結び付けた計画を、「未病を治す里」づくりとして提言をすべきではないか。